

女
四
書

女
誠
全

特 別
□ 9
3454
7 止



女誡大家のこのしつりて世のんがらけひくい書と
あつりてはむかひのしつりてのしつりてのしつりて
いふとくは書大家のしつりてのしつりてのしつりて
とらりて女子のしつりてのしつりてのしつりて
あつりて

女誡目録

早弱章第一

夫婦章第二

敬慎章第三

婦行章第四

専心章第五

曲從章第六

和叔妹章七

女誠自録終

女誠

早弱章第一

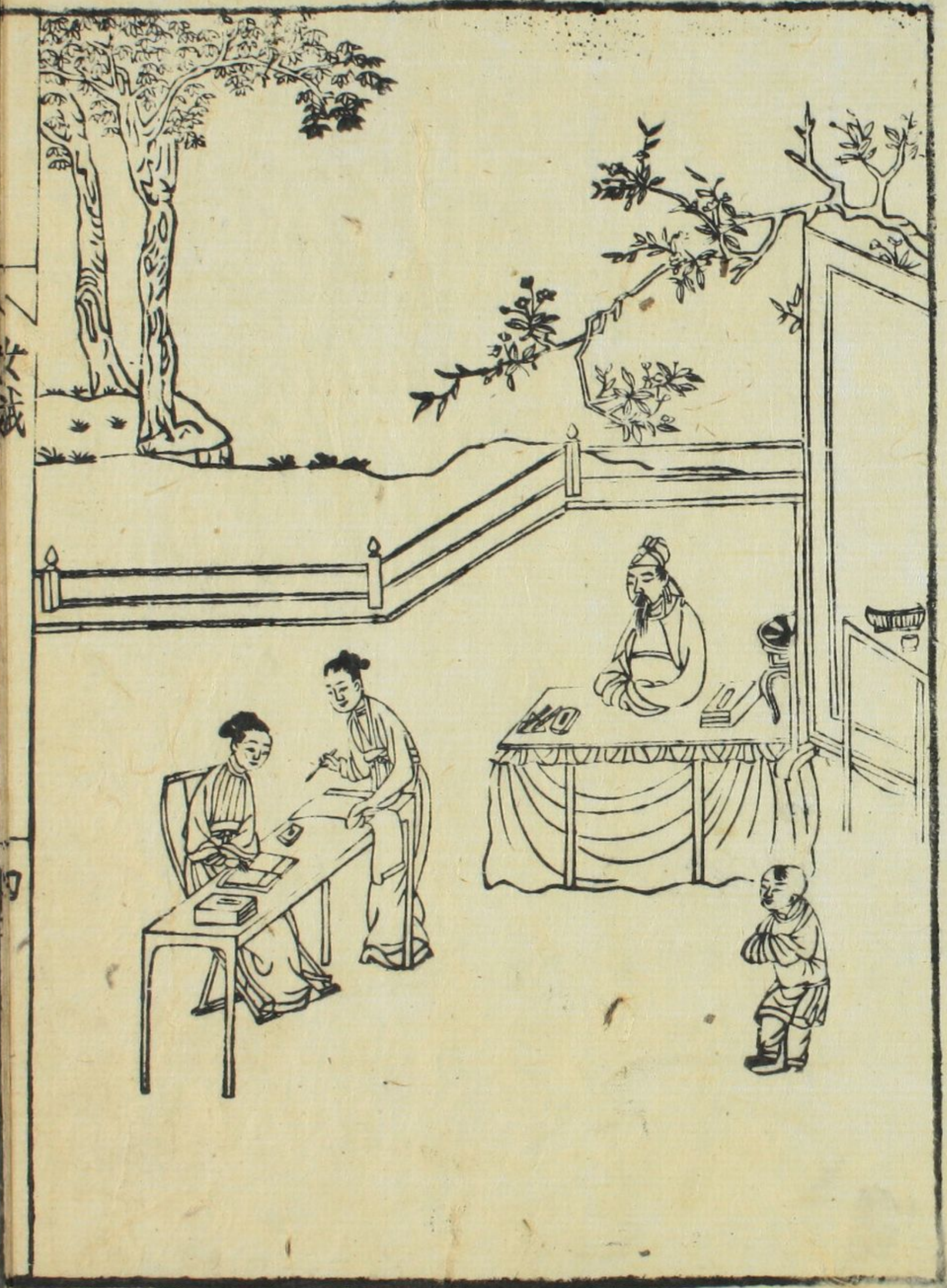
早弱といふは、身と心と、
 やりつゝあるは、
 めばらるの礼は、
 もろく先づ、
 乃て先づ、
 づげなる物也、
 といへく生れ、
 夫ともやまひつゝ、

夫婦章第二

夫婦乃ららば陰陽よかたす神明りかうひく天地
 の道理りたがひん人倫お換のりくひかまはだ醒
 人乃をへも夫婦乃ららばあまやうし給ひてい
 うりえおむさかみらありと何とおろふかむつま
 とたさ絶えん書りこけねと何とにほか
 らら紙書くはと何とてつま紙おき絶えん
 ねど威儀もこれ書りてと何とにほかふか
 とあうざねど教理うけぬ今乃世の人乃をわこ
 ぶ人男子と何と男子とをいひ給ふとたじ



をさるるゆゑとていと女を好むるはけしき人なり
あらずまはたすといふものなほふりつるまはたと
あらずとて女の海にまはるといふはけしき
まはるといふはけしきとていひおはらるるも
まはるといふはけしきとていひおはらるるも
まはるといふはけしきとていひおはらるるも
まはるといふはけしきとていひおはらるるも
まはるといふはけしきとていひおはらるるも
まはるといふはけしきとていひおはらるるも
まはるといふはけしきとていひおはらるるも



うるひにちかき^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}
 わり^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}
 ちかき^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}
 てあ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}
 き^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}
 のあ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}
 らあ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}
 らあ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}
 らあ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}
 らあ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}あはれ^{あはれ}



ひねりてうらむるにあり。こころのまじりあはれ
 おのひなる徳^{きくざ}あはれにむらさきとてうらむる
 まあねだらうとてあはれにむらさきとて
 こあひてうらむるにあり。こころのまじりあはれ
 とはとねんまうんとねんまうにおいさなれたま
 あはれに^{せんりく}あはれとてうらむるにあり。こころのまじりあはれ
 けりねとてうらむる

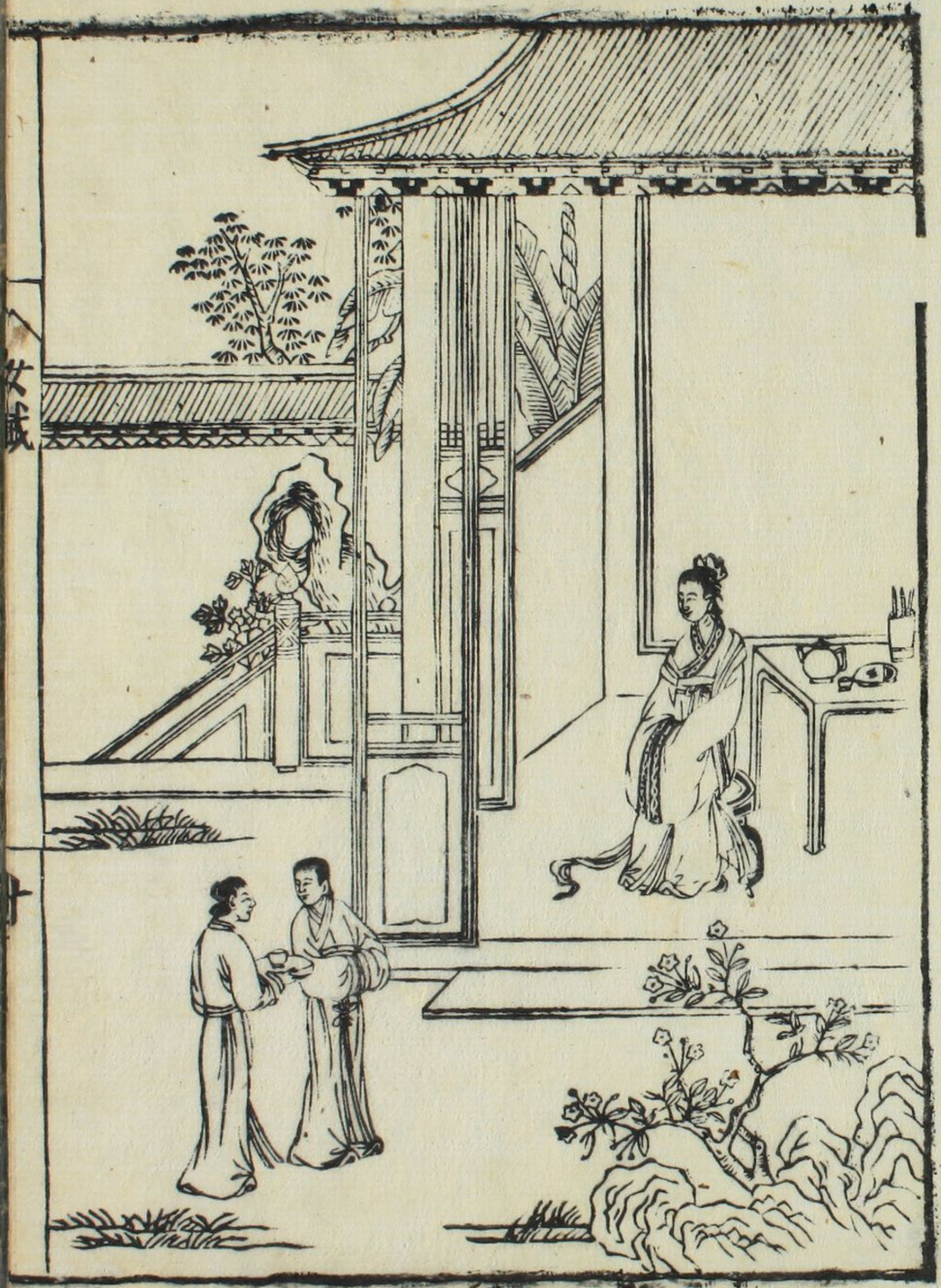


専心孝子又

せんえん
おんしんがらんをこころあてて徳念りくもるまつた
事也。聖人の礼をせん無終ひ。礼法をしまひ二友
めとぶ教を其の友とて法を。其の友にたすくもの
るは。書乃其の友とて法を。其の友にたすくもの
ひのがれがらうとて法を。其の友にたすくもの
こゆるみらるまといふとて法を。其の友にたすくもの
にあらわされたる其の友にたすくもの
をあらわされたる其の友にたすくもの
まねたがらうとて法を。其の友にたすくもの

せんえん
おんしんがらんをこころあてて徳念りくもるまつた
事也。聖人の礼をせん無終ひ。礼法をしまひ二友
めとぶ教を其の友とて法を。其の友にたすくもの
るは。書乃其の友とて法を。其の友にたすくもの
ひのがれがらうとて法を。其の友にたすくもの
こゆるみらるまといふとて法を。其の友にたすくもの
にあらわされたる其の友にたすくもの
をあらわされたる其の友にたすくもの
まねたがらうとて法を。其の友にたすくもの

まはし祓や乃戸のやうと見あつてくゝとあつたわりの
 だらひとととらあつて礼義まじいごとたゞまうくしてと
 ひゆり足だちあつたまひうらくあつてまのほりぐを
 見こく事さうしうすわがらあつていふ事を
 ことかこしと見せしてあつたおほりどかかまうづら
 とあつてさうはくのおとがさつてつとまうづら
 そつとつとあつていふ事さうとあつた
 くらひられまうづらあつてあつたおの礼義まじいご
 といふ事さうあつてあつたおの礼義まじいご
 といふ事さうあつてあつたおの礼義まじいご



女成



和叔妹章中七

和叔妹といふはあいにあつたに
 事也。夫のらよるゆゑにさうさ
 ありてはひてついでにさうさ
 ありてはひてついでにさうさ
 こゝろにあつたにさうさ
 ゆゑありてはひてついでに
 とせんといふはあいにあつた
 とせんといふはあいにあつた
 とせんといふはあいにあつた

女談

十一

かなゆいおきりくちりまおしをひくひくかきしげ
 とおおくおきりくちりまおしをひくひくかきしげ
 夫のふよるひゆるをいふにやいふにやいふにや
 ていふにやいふにやいふにやいふにやいふにや
 にらるるにやいふにやいふにやいふにやいふにや
 ちまらるるにやいふにやいふにやいふにやいふにや
 子をほめ給ひたれおまらるるにやいふにやいふにや
 ねどゆておまらるるにやいふにやいふにやいふにや
 るるよ人の書とありていふにやいふにやいふにや
 へいふにやいふにやいふにやいふにやいふにや

わらわいおきりくちりまおしをひくひくかきしげ
 ちまらるるにやいふにやいふにやいふにやいふにや
 おまらるるにやいふにやいふにやいふにやいふにや
 ていふにやいふにやいふにやいふにやいふにや
 ちまらるるにやいふにやいふにやいふにやいふにや
 ねどゆておまらるるにやいふにやいふにやいふにや
 るるよ人の書とありていふにやいふにやいふにや
 へいふにやいふにやいふにやいふにやいふにや

女孝經女論語內訓女誡之四書
者閨門萬世之龜鑑也故諺解梓
行而遍布宇內云爾皆

明曆二丙申年春季春穀且



